

防災訓練や避難に活用

紀宝町と中央大学（東京都）は、VR（バーチャルリアリティ＝仮想現実）やAR（オーギュメンテッドリアリティ＝拡張現実）などのデジタル技術を使った防災訓練や避難支援の実用化に向け、共同で研究を進めている。14・15日は町民がVR装置を使ってバーチャル空間を体験し、実際に避難訓練に活用できるか実証実験した。

避難計||練に活用できるか美説美験じに

を使つてハニチャル空間を体験し、美術

進めてゐる。14・15日は晴天が続いたので、午後は空港で仕事、午前は車で市内を散歩した。

に延難支援の実用化に向け、民間で開発が進んでいます。1月15日は町屋がVBP

の選択支擇の書里化に向は、共同で研修

(書) など) のデジタル技術を使った防災計

—ギュメンテイドリアリティ＝拡張

ーチャルリアリティ（仮想現実）やAR

紀宝町と中央大学（東京都）は、VR

VRやARなどデジタル技術

中央紀念圖書館

訓練は鶴殿地区周辺で行い、地区外に住む20代～70代の25人が参じたグループは、現実感VRを1回だけ体験し、VRを1回だけ体験したグループは、現実感VRを1回だけ体験した。世界の避難では防災拠点以外を選ぶ人も多発した。大震が発生し、10メートルの津波が10分で到達すると想定。これがなく現実とリンクされず、経路を覚えていいのか迷った」心理的に「どちらに迷った。JR初日に、VR1に「何となく覚えていたが、経験を優先して川や海から離れたかった」と答えた。JR3回、VR3回、VTRで山方面に向かった」と答えた。JR3回、VR3回、VTRで山方面に向かった」と答えた。

A person wearing a flight suit and helmet stands on a circular platform, likely a hot air balloon basket, holding onto a metal railing.

紀宝町 中央大と共同開発

山県が「体験ツアーハウス」

活用事業者の声

子さんはひまなスケートで、田辺市下原地区のウザン莊で、田中かえ実施。事業は1月18日(土)第2回「空き家」と題して、美浜町三尾の道草屋仕事は2月18日(土)第3回「空き家」と題して、片桐秀典さん・奈さんひまなスケートで、ごはとじお塙と雑賀さん・施。第三回「空き家」と題して、工は2月1日(土)海南市冷水のチャイアード、伊藤智寿さるで、伊藤智寿さん。

23	干潮	0:41/12:59
6	9	12
15	18	21
0		
0 %	0 %	0 %

に実施する。
らをケント
迎なはる。いざれも時間は午後1時から。
手時までは、各回とも口座の中は体験ワークショッピングの構成。各回定員10人
華異まで。夜のワークショッピング参加費無料(懇親会は
料)。申し込みは詳細・申込みはRコード参照。

太地町職員募集

性、民滿民七